

山形市野草園だより (7月号)

あなたは ^お どちらを推しますか？



<アジサイ>



<ヤマユリ>



<ガクアジサイ>



<オニユリ>

7月は「紫陽花（アジサイ）」の仲間と共に、「百合（ユリ）」の仲間もたくさん咲きます。本園では、アジサイの仲間としては、「アジサイ」「ガクアジサイ」「エゾアジサイ」「ヤマアジサイ」が、ユリの仲間としては、「ヤマユリ」「オニユリ」「コオニユリ」「クルマユリ」が咲きます。

あなたはアジサイとユリとでは、どちらを推しますか？

山形市野草園

山形市大字神尾 832-3

電話 023-634-4120

野草園は



ポイント対象施設です



7～8月中旬の予定

◆開園期間

- 開園期間 4/1(火)～11/30(日) 7/6(日)は無料開放日
- 休園日 毎週月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は翌平日)
*7月の休園日: 7/7(月)、7/14(月)、7/22(火)、7/28(月)

◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 内容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、1回の来園で500ポイント付与(1日1回まで)《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週日曜日・祝日 1日2回実施 *9月は土曜日も実施します
*7月の実施日: 7/6(日)、7/13(日)、7・20(日) 7/21(月)、7/27(日)
- 時間 ① 10:30～11:30 ② 13:30～14:30
- 内容 その日の見頃の場所・見頃の植物を案内
- 費用 無料(入園料300円は別途)

◆第31回写真コンテスト入賞作品展

- 日時 6月6日(金)～7月10日(木) 9:00～16:00
- 場所 自然学習センター内
- 内容 第31回写真コンテストの入賞作品を展示します。

◆ホタル観察会

- 日時 6月26日(木)、6月27日(金)、6月28日(土)
7月3日(木)、7月4日(金)、7月5日(土) 19:45～21:00
- 内容 ゲンジボタルやヘイケボタルの観察
- 対象 各日 20組(抽選)
- 申込 受付は終了いたしました。
- 参加費 300円(入園料込み)

◆庭木を楽しむための基礎講座(第2回)(第3回)

- 日時 7/4(金)、7/5(土) 9:30～11:30
- 内容 初心者を対象に、庭木の生活リズム、管理について学ぶ講座
- 対象 両日 先着30人
- 申込 受付中
- 参加費 500円(高校生以下200円)資料代・入園料込
- 持ち物 刈込みばさみ

◆虫とりに行こう

- 日時 7/19(土)、7/20(日) 10:00～12:00
- 内容 夏の森でさまざまな虫たちを探す(雨天中止)
- 対象 小学生とその保護者 各日 先着10組
- 申込 7/19は受付中。7/20は定員に達したため受付は終了いたしました。
- 参加費 無料(入園料300円は別途)
- 持ち物 虫かご、虫とり網

◆木工工作教室

- 日 時 7/26(土)、8/9(土) 9:30~12:00
- 内 容 木の枝等を使って自由に工作
- 申 込 小学生とその保護者 各日 先着8組 7/6(日)~ 野草園まで電話で
- 参加費 無料(入園料300円は別途)

◆昆虫写真教室

- 日 時 7/27(日) 10:00~12:00
- 内 容 食べる・休む・隠れるなど、さまざまな虫たちの暮らしを写す視点を学ぶ
(小雨決行)
- 申 込 大人 先着10人 7/6(日)~ 野草園まで電話で
- 参加費 無料(入園料300円は別途)
- 持ち物 カメラからスマホまで撮影できるもの

◆木工工作コーナー

- 日 時 7/27(日)~8/8(金) 10:00~12:00
- 内 容 木の枝等を使って自由に工作できるコーナーを設置
- 申 込 事前申込なし(当日の入園で参加いただけます)
- 参加費 無料(入園料300円は別途)
- 場 所 園内 自然学習センター ピロティ



◆カフェの営業・山野草販売 (於 自然学習センター)

- カフェ やまぼうし
《営業》土曜・日曜
《メニュー》カレー(ブラック・グリーン)、ピザトースト、ハム野菜サンド、
バナナシェイク、コーヒー(アイス・ホット)
- 山野草販売
《営業》土曜・日曜・祝日に販売予定(平日販売の場合もあり・夏の期間休業あり)

◆開花した花等の紹介

- 野草園のホームページから観察日記・インスタグラム
をご覧ください。
園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。
- ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物
を検索できます。



YAMAGATASHI.YASOUEN

▲野草園観察日記▲ ▲インスタグラム▲

●● 7~8月の風景 ●●



庭木を楽しむための基礎講座

虫とりにいこう

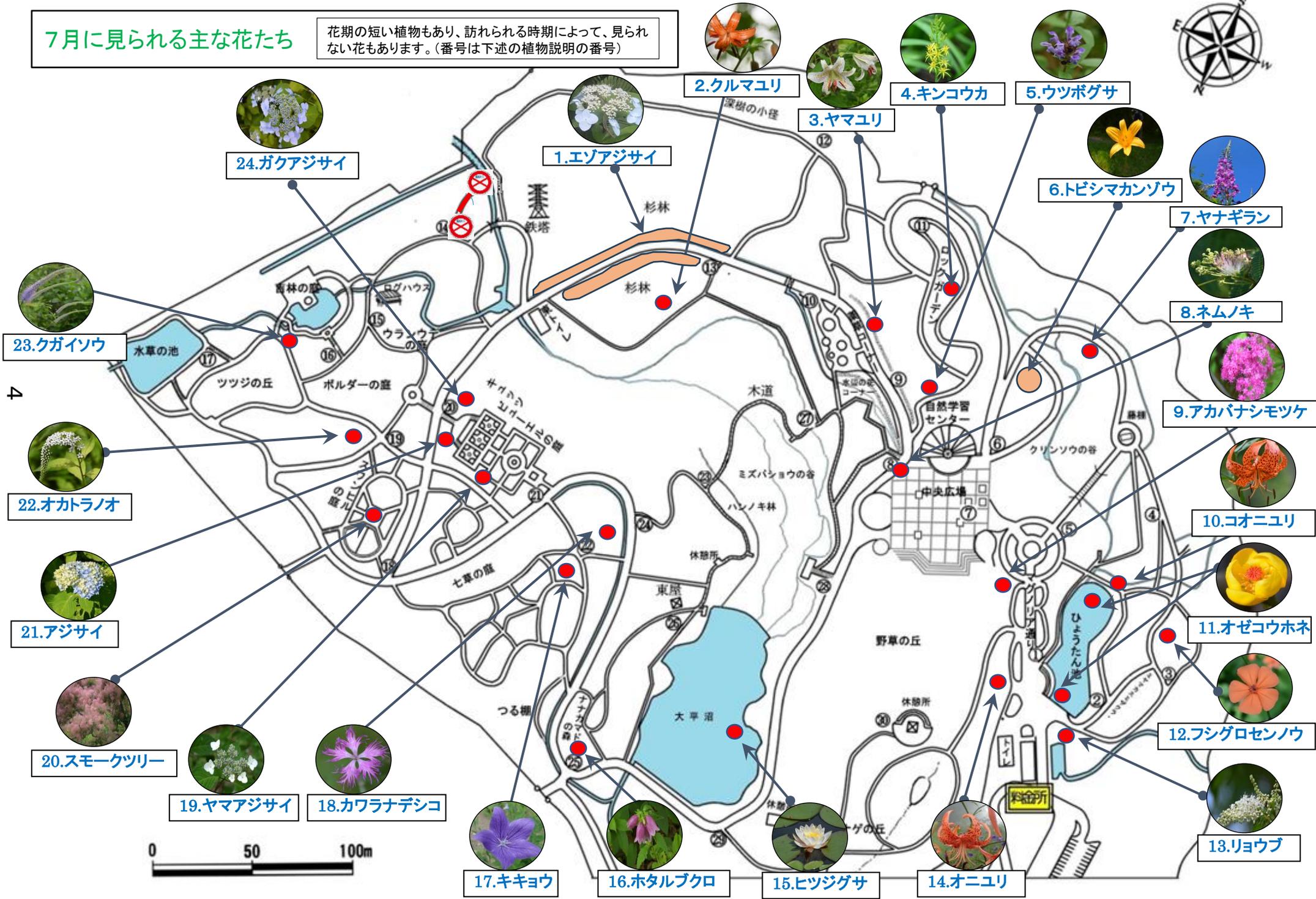


昆虫写真教室

木工工作教室

7月に見られる主な花たち

花期の短い植物もあり、訪れられる時期によって、見られない花もあります。(番号は下述の植物説明の番号)



24. ガクアジサイ

1. エゾアジサイ

2. クルマユリ

3. ヤマユリ

4. キンコウカ

5. ウツボグサ

6. トビシマカンゾウ

7. ヤナギラン

8. ネムノキ

9. アカバナシモツケ

10. コオニユリ

11. オゼコウホネ

12. フシグロセンノウ

13. リョウブ

23. クガイソウ

22. オカラノオ

21. アジサイ

20. スモークツリー

19. ヤマアジサイ

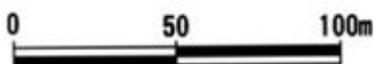
18. カワラナデシコ

17. キキョウ

16. ホタルブクロ

15. ヒツジグサ

14. オニユリ



●●● 7月に見られる主な花 ●●●

場所 は見られる主な場所



1 エゾアジサイ (アジサイ科) アジサイロード

北海道と本州北部及び日本海側の山地の斜面や沢沿いに生える日本固有種です。両生花の周りの装飾花の色合いが、コバルトブルーでとても美しく見えます。葉の縁に粗い鋸歯があります。ガクアジサイと似ていますが、葉に光沢がなく薄手です。見て、触って確認してみましょう。



2 クルマユリ (ユリ科) アジサイロード杉林

本州中部以北の亜高山帯の草原に生える多年草です。葉は茎の中央部付近に6～15枚が輪生し、その上部に3～4枚がまばらにつきます。茎の先に黄赤色の花をつけ、花は下を向きます。花弁はせまい披針形で広く基部から開いてそり返ります。葉が放射状についでいる様子を車輪にたとえたことが名前の由来です。



3 ヤマユリ (ユリ科) 薬草コーナー周辺

山地に生える日本固有種のユリです。高さ1～1.5mの茎は直立しますが、大輪の花の重みで少し倒れてしまうものが多いようです。茎先に数個咲く花は径20cmを超え、強い芳香があります。白い花弁の内側には赤い小点がたくさんあります。その姿は豪華で華麗、まさに「ユリの女王」です。



4 キンコウカ (キンコウカ科) ロックガーデン

山地帯～高山帯の湿地や湿原に生える多年草で、群生して咲きます。葉は中脈から折りたたまれています。花茎は高さ20～40cmで総状に多数の黄色い花をつけます。開花すると雄しべの花糸に縮れ毛が密生します。花後、花被片は緑色になります。花色が名前の由来で、「金光花 (キンコウカ)」とつけられたようです。



5 ウツボグサ (シソ科) ロックガーデン登り口

日本各地の山野の草地に普通に見られる多年草です。うつぼ(鞞)とは、その昔、武士が矢を入れて背負った武具のことです。この植物の花穂がそれに似ていることが名前の由来です。夏の盛りには枯れてしまい、茶色くかさかさの状態になります。そんな様子から、“夏枯草 (かこそう)”とも呼ばれています。枯れた姿も印象的です。



6 トビシマカンゾウ (ワスレグサ科) クリンソウの谷

飛島・男鹿半島・佐渡島の海の近くに生える、草丈が1～2mの多年草です。ひとあし先に開花したゼンテイカ（ニッコウキスゲ）を一回り大きくした感じです。花は1日花で、黄橙色の6弁花を茎先に10個程次々に咲かせます。酒田市のシンボルの花がトビシマカンゾウです。現在ゼンテイカとの遺伝的分化の解明が進められています。



7 ヤナギラン (アカバナ科) クリンソウの谷

花が美しい蘭に、葉が柳に似ていることが名前の由来です。山地の日当たりのよいところに生える多年草で、山野が工事跡などで荒れると進出し木が茂ると姿を消す先駆植物です。茎の先に多数の紅紫色の花を開き、下から上へ咲き上がります。夏の終わり頃には、白い綿毛を穂全体からいっぱいに出し、その様子もまた見事です。



8 ネムノキ (マメ科) 案内標識®付近

山地や原野、川岸などに生える落葉高木です。夜になると小葉が眠るように閉じます。枝先に10～20個の紅色の花を散形状につけます。花は花弁が合体し、上部だけが5片に分かれ、淡紅色のたくさんの長い雄しべが目立ちます。雌しべは白色の糸状で雄しべより少し長いようです。



9 アカバナシモツケ (バラ科) マグノリア通り

茎の先に、小さな紅色の花をたくさんつける多年草です。ひとつひとつの小花からは、多くの雄しべが長く伸びて、全体的にふわっとした感じに見えます。葉は5つから7つに深く裂け、また、鋸歯があるので、モミジの葉のような印象です。接写で撮影することがおすすめです。



10 コオニユリ(ユリ科) ひょうたん池南側道路

日当たりの良い湿り気のある山地に生える多年草です。葉は線状披針形で、葉のわきにオニユリのようにムカゴはつきません。茎の先端に黄赤色の花をつけますが、花の数はオニユリよりも少なく形も少し小さいです。花弁は6個、上部はそり返り内側には紫黒色の小点がまばらにあります。オニユリよりも小さいことが名前の由来です。



11 オゼコウホネ (スイレン科) ひょうたん池

高山や北地の池沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を1個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。雌しべの柱頭盤が赤いです。コウホネは黄色です。



12 フシグロセンノウ (ナデシコ科)

ひょうたん池西側林内

山地や林中に生育する多年草で、オレンジ色で径5cm程の5弁花を平らに開きます。名前の由来は、茎の節の部分が茶色っぽい紫黒色なので「節黒」、京都嵯峨仙翁寺というところが作出したので「仙翁」だそうです。萼は筒状で、先が5つに裂けます。葉は卵形で対生、葉の先は尖り、縁には毛が生えています。



13 リョウブ (リョウブ科) 料金所側

山林の中に生える落葉の小高木で、樹皮は薄片となってはがれ、残りは茶褐色でなめらかです。葉は枝先に集まって互生し広い倒披針形です。枝先に小さな白い花を密につけます。木肌がきれいなので、薄片をつけたまま床柱として使われました。昔、若い葉を保存しておき、救荒食物としても使われたようです。



14 オニユリ(ユリ科) 野草の丘西側斜面

茎の頂に、径10~12cmの朱色の花を数個つけます。花被片は、赤橙色で暗紫色の斑点が多数あり、強く反り返ります。長い雄しべと葯の紫色も目立ちますが、それ以上に葉の基部に付くムカゴ(零余子)が目立ち、他のものと見分ける大きな特徴になっています。花の色が鬼を思わせることが名前の由来です。



15 ヒツジグサ (スイレン科) 大平沼

湖沼に見られる多年生水草です。卵円形で光沢がある緑色の葉を水上に浮かべて、細長い花柄の先に白い花を開きます。萼片は4枚で緑色、花弁は白色で8~15枚あり、長さは萼片とほぼ同じで、黄色い雄しべの葯が目立ちます。名前は末草(ヒツジグサ)で、未の刻(午後2時)頃に関くことに由来します。そして、夕方には閉じてしまいます。



16 ホタルブクロ (キキョウ科) 案内②⑤付近

チョウチンバナ、ツリガネソウ、ホタルグサなどの沢山の方言での呼び名があります。茎の上に大きな鐘形の花をつけますが、袋状の花の中にホタルを入れて遊んだことが名前の由来といわれています。萼片のところにそり返った附属体があります。そり返らないのは“ヤマホタルブクロ”です。



17 キキョウ (キキョウ科) 七草の庭

日当たりのよい山地や野原などに生える多年草です。根は太く黄白色をしており薬用とされています。葉は長卵形で先は尖り、縁には鋸歯があります。茎の上部に青紫色の鐘形5裂の花を開きます。秋の七草でいうアサガオはキキョウのことだといわれています。



18 カワラナデシコ (ナデシコ科) 七草の庭

各地の山野に自生する多年生草本です。葉は対生し、線形または披針形で、基部は茎を少し抱きます。花茎の先に咲く淡紅紫色の花は、花弁の先が細かく裂けとても優美に見えます。秋の七草のひとつに数えられていますが、7月には咲き始めます。河原に生える可憐な花の様子が名前の由来です。



19 ヤマアジサイ (アジサイ科) ハーブ園北側道路

本州では関東より西、また四国、九州に分布する山地に生える落葉樹です。高さ1m位で、葉は対生で柄があり、夏に枝先に散房花序をつけ、多数の花を開きます。周囲には青か白、または淡紅色の装飾花をつけます。日本海側に多いエゾアジサイに比べると、太平洋側に多い本種は、花も葉も小さく湿った林内や沢沿いに生えることから、サワアジサイとも呼ばれています。花の色に変化が多いのも特徴です。



20 スモークツリー (ウルシ科) スワンヒルの庭

初夏に花を咲かせる雌雄異株の落葉樹木で、ヨーロッパから中国に分布します。小さな淡緑色の花を穂状にたくさん咲かせますが、雌株の花後にタネを結ばない花(不稔花)の軸の部分が長く伸びて羽毛のようになり、花穂の見え目がもふもふした感じになり、離れてみると煙のように見えます。

21 アジサイ《別名：杵ヅサイ》(アジサイ科)

ハーブ園東入口



アジサイという名前はアジサイ属の一部の総称とされ、他と区別するために「ホンアジサイ」と呼ばれることがあります。たくさんの花の集まりは、手毬咲きと呼ばれます。ひとつひとつの花は雄しべや雌しべのない装飾花で、ガクアジサイの突然変異種です。装飾花だけで種ができませんので挿し木で増やします。

22 オカトラノオ(サクラソウ科) 案内標識⑩付近



山地や丘陵などの日当たりの良い草地に生える多年草で、茎は直立し分岐しません。茎の先に一方に傾いた総状花序をつくり、多数の白い花を密につけ下から咲いていきます。名前は、花序の様子を虎の尻尾に見立てたことに由来します。

23 クガイソウ(オオバコ科) 吉林の庭



山地の日当たりのよい草地に生える多年草です。葉は長楕円状披針形で、4~8枚が輪生して数層となります。茎の頂きに穂のような長い総状花序をだし、多数の花を開きます。青紫色の花は、下の方から順次上の方に咲いていきます。名の由来は多層に輪生する葉の様子からつけられたようです。

24 ガクアジサイ(アジサイ科) ハーブ園東道路



房総半島・三浦半島・伊豆半島などに生える背丈2m程の落葉低木です。葉は長卵形で厚く、茎先に大形の花序を付けます。中心部に小さい青色の両性花が密集します。周りは萼片が変化した4枚の白い装飾花で、それが額縁のように見えることが名前の由来です。

昨年から、学名入り看板を作成しています。植物名の緑色の背景は「草本」、青色は「木本」、赤色は「有毒植物」になっています。「サクラ属&ウワミズザクラ属」はピンクの背景になっています。

ミズバショウ(サトイモ科)

学名 *Lysichiton camtschatcensis* (L.) Schott (Araceae)

シベリア東部、サハリン、千島列島、カムチャツカ半島と日本の北海道と中部地方以北の本州の日本海側に分布する。南限の兵庫県淡路市の加保岬にも隔離分布している。約1万株自生する野原面のシシトリスミレは葉の長さ1~1.5m、幅50cm程の大きな葉をつける植物で、バナナの仲間である。ミズバショウの葉も花後は約80cmにもなるので「シショウ」と名がついた。花弁に見える白い部分は、仏炎苞(ぶつえんほう)と呼ばれる葉が変化したもの。和名「水芭蕉(ミズバショウ)」は、バショウの葉に似て、水辺に咲くため。



シロヤナギ(ヤナギ科)

学名 *Salix dolichostyla* Seemen subsp. *dolichostyla* (Salicaceae)

北海道、本州の東北地方および北陸地方、関東地方北部に分布する。国外ではヨーロッパ、アジア、北アフリカに広く分布している。特に川沿いや湿地など、水分の多い場所によく見られる高さ20~30mになる落葉高木。雌雄異株。若い木の樹皮は滑らかで緑色で、成長になると灰色で深い縦裂の裂け目が入る。葉は互生し、長さ5~11cmの長楕円状披針形から線形形で尖り、縁には波状の鋸歯がある。表面は濃緑色、裏面は粉白色葉は細長く、先端が尖っており、表面は緑色で裏面は銀白色をしている。葉に雄花は黄色い筒が目立つ花序をつけ、雌花は緑色でふくらんだ柱頭をもちた花序をつける。受粉後、綿毛の付いた種子を飛ばす。和名「白柳(シロヤナギ)」は、葉の裏面が白く輝く様子から、この名前が付けられた。

花期 4月

ヤマブキノソウ(ケシ科)

学名 *Hyomecon japonica* (Thunb.) Prantl et Kundig (Papaveraceae)

本州、四国、九州に分布する。国外では中国に分布する。山野の樹の下に生える多年草。茎や葉に黄色い汁をきく。茎は直立し滑らか、高さ30~40cm。ヤマブキが5弁花の本木に対し、本種は4弁花の茎本。種出葉は帯線状複葉で長い葉柄がある。小葉は先端はとがり、縁は切れ込みと細かい鋸歯がある。春、葉腋に緑や黄白色の花を1~2個つける。緑色の萼片は2個あり、開花直前に落ちる。雄しべは多数。雌しべは1本。蒴果は直立し、長さ3cm位。茎や葉を切ると黄色の乳液が出るのはケシ科の特徴。全葉にアルカロイドを含み、嚼んで食べると吐き気、手足のしびれ、呼吸困難などの症状が現れる。和名「山吹草(ヤマブキノソウ)」は、別名クヤマブキとも書かれているように、花がバラ科のヤマブキに似ていることが名前の由来。

花期 5月上旬~中旬